

令和7年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会
第2回定例会会議録

1 開催日時 令和8年2月10日(火)午後1時30分から午後1時58分まで

2 開催場所 小牧岩倉エコルセンター 2階研修室

3 出席委員

| | | | |
|--------|-----------|-------|------|
| 稲垣 貴宣 | 委員長 | 落合 健一 | 副委員長 |
| 野々川 嘉則 | 委員 | 関谷 吉彦 | 委員 |
| 永井 勇 | 委員 | 井戸田通敬 | 委員 |
| 山田 康治 | 委員 | 三島由美子 | 委員 |
| 松井 隆明 | 委員 | 西村多香子 | 委員 |
| 稲垣 淳郎 | 委員 | 伊藤 学 | 委員 |
| 河村 典久 | 委員(学識経験者) | 渡邊 浩 | 委員 |
| 秋田 伸裕 | 委員 | | |

欠席委員

| | | | |
|-------|----|-------|----|
| 赤松 修二 | 委員 | 伊藤 新治 | 委員 |
|-------|----|-------|----|

事務局

| | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 竹内 隆正 | 事務局長 | 熊崎 礎功 | 業務課長 |
| 永見 昭恵 | 総務課長 | 服部 和宏 | 業務課長補佐 |
| 稲垣 徹 | 業務課施設管理係長 | 堀田 易伯 | 総務課財政係長 |

4 議題

- (1) 令和7年下半期ごみ溶融炉運転状況について
- (2) 令和7年夏季・秋季気象調査について
- (3) 調整池からの排水調査について

5 会議資料

- ・ 令和7年下半期ごみ溶融炉運転状況【資料1】
- ・ 気象調査(通年観測・特別観測)報告書【資料2】
- ・ 調整池からの排水調査報告書【資料3】

6 議事内容

竹内事務局長：本日は、大変お忙しい中、当委員会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。初めに配付させていただきました本日の会

議資料の確認をさせていただきたいと思います。委員の皆さま方の机の上には、次第及び資料の1から3まで並びに委員名簿を委員様の机の上に配付させていただいております。もしなければお申し付けいただければと思います。よろしかったでしょうか。

竹内事務局長：それでは、改めまして定刻になりましたので、ただいまから令和7年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第2回定例会を開会いたします。本日の出席委員は、15名であります。環境センター管理委員会要綱第5条の規定により、会議は成立しております。次第に従いまして、委員長からごあいさつをさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

稲垣委員長：あいさつ

竹内事務局長：ありがとうございました。これ以降の議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いいたします。

稲垣委員長：それでは、議事に入ります。議題1「令和7年下半期ごみ溶融炉運転状況について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

熊崎業務課長：資料1をご覧ください。1ページ、令和7年下半期ごみ溶融炉運転状況について説明いたします。1号炉は、7月1日からの28日間の運転を含み128日間の運転を行いました。2号炉は、7月1日からの83日間の運転を含み121日間の運転を行いました。1号炉、2号炉並列運転日数につきましては合計85日間です。続きまして、2ページの運転実績です。7月から12月までの搬入量合計は、搬入日数が158日、可燃ごみ量19,040.11トン、破碎残渣物を含む搬入量合計で20,703.36トンでした。また、令和7年1月から12月において、能登半島の災害ごみ及び春日井市の可燃ごみを含んだ搬入量合計では、40,794.40トンであります。続いて、令和7年の溶融処理量につきましては、1号炉2号炉の合計日数で479日、溶融量は42,691.19トンであります。また、令和7年のスラグ、メタル排出量合計は4,212.90トン、ごみ汚水量、ピット放水等に示す値は、下半期の量であります。搬入量合計を令和6年と比較しますと、率で2.29%、量で954.03トンの減少でした。続いて、3ページをご覧ください。令和7年下半期の環境センター調査概要についてになります。(1)目的、(2)測定地点、(3)測定機関と測定月、4ページに移りまして、(4)

の測定項目に変更はありません。続きまして、5ページの排ガス濃度測定結果（手分析）をご覧ください。1号炉は7月、10月、11月、2号炉は7月、8月、10月に測定を行い、測定結果につきましては表中に記載されたとおりです。6ページ、排ガス濃度測定結果の（自動連続測定）についても、表中に記載されたとおりで協定基準値以下の値でした。続きまして、7ページの騒音・振動測定結果について報告をいたします。

1、騒音測定結果について、昼間の時間帯で説明させていただきます。7月2日からの24時間の測定結果にて、測定地点①45dB、②39dB、③46dB、④43dB、⑤49dB、⑥49dB、11月17日からの24時間の測定結果は、測定地点①43dB、②44dB、③46dB、④45dB、⑤49dB、⑥48dB、以下、夕、夜間、朝の時間帯で測定した結果は表中に記載されたとおりです。なお、測定値は、敷地境界線上での測定で除外できない周辺騒音を含んだ値となっています。

2、振動測定の結果は、昼間及び夜間の時間帯に測定を行い、7月2日からの測定と11月17日からの測定において、測定地点①から⑥の全て30dB未満であり協定基準値以下の値でした。続きまして、8ページの臭気測定結果について報告します。測定日は7月7日です。

1のアンモニアからキシレンの22項目及び臭気指数において協定基準値以下の値でした。9ページは、各種測定箇所の位置図になります。続きまして、10ページをご覧ください。上の表は可燃ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフになります。下の表は総ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフになります。下の表において、令和7年の合計が41,235.90トンで、令和6年より966.80トン、率で2.29%の減少になりました。また、こちらにも※印にて、災害ごみ等の量を記載しております。11ページからは資料となります。

服部業務課長補佐：続きまして、前回の管理委員会にてご指摘のありました排ガス濃度測定（手分析）のダイオキシン類測定結果の^{ゼロ}0表記について説明いたします。資料はございませんが、今回お配りいたしました資料でいいますと、資料1の5ページになります。分析業者にも確認をしておりますが、ダイオキシン類について、JIS規定では分析結果が定量下限値未満の場合は、毒性等量^{ゼロ}0と表します。従いまして、今後、ダイオキシン類の測定結果が定量下限値未満の場合につきましては、分析結果としましては、^{ゼロ}0 ng-TEQ/m³と表記しまして、^{ゼロ}0とは定量下限値未満を表すとの注釈を追記させていただきます。なお、前回ご指摘いただきました有識者であります河村先生には事前に説明をいたしまして、ご理解を

いただいております。
説明は以上となります。

稲垣委員長：事務局の説明は終わりました。これについて、質問はありませんか。

井戸田委員：ここのごみ焼却場の運転状況以外のことになるかもしれませんが、他県から持ってきたごみは、無料でこちらで燃やしてみえますか。

永見総務課長：受入れにつきましては、応援協定を結ばせていただいております。処理に係る経費をこちらの持ち込みと同じ金額で他県からいただいております。

井戸田委員：ここのごみ焼却場は小牧市ですけど、小牧市としてはそれだけ利益がでたということになるわけですか。

永見総務課長：利益といいますか、歳入としてその金額を受けておりますので、こちらの財源として金額は入っております。

井戸田委員：ここを作る時に、野口の温水プールですけど、小牧市の野口区に作るから、野口区の人が楽しめる場所として作ったのではないですか。それで今になって、水漏れするから修理は出来ないよとか作れないよと聞いているんですけど、ここのごみ焼却場は続くんですけど野口としては、遊びの場として作ったものを今になってだめですよ。ということは少しおかしいと思いますが、そういうことはわからないでしょうか。

竹内事務局長：温水プールの位置づけにつきましては、今後、ここは令和 22 年 3 月で退去をというお地元からの約束もございますので、これから直して短期間で多額の費用をかけて運営をすることは、費用対効果も含めてトータル判断として温水プールの再築は、基本は考えないよということで議会で答弁させていただいております。手元に資料がありませんので正確ではございませんが、令和 6 年 3 月議会だったと記憶していますが、その時に温水プールとごみ焼却場の関係について答弁させていただいておりますので、それについてはご理解をいただきたいと思います。

井戸田委員：分かりました。

稲垣委員長：ほかにご質問はありませんか。なければ、議題1については終了します。

続きまして、議題2「令和7年夏季、秋季気象調査について」及び議題3「調整池からの排水調査について」を一括議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

服部業務課長補佐：資料2、気象調査、通年観測報告書と特別観測報告書の1ページをご覧ください。第1章、調査概要の1-1目的、1-2調査地点につきましては変更ありません。1-3調査期間、通年夏季調査期間は、令和7年6月1日から令和7年8月31日まで、通年秋季調査期間は、令和7年9月1日から令和7年11月30日まで、特別観測の秋季調査期間は、令和7年10月24日から令和7年10月30日まで、1-4調査機関は一般財団法人日本気象協会です。1-5調査項目及び測定方法につきましては変更ありません。2ページは調査地点図になります。続きまして、3ページをご覧ください。第2章、調査結果について報告させていただきます。風向・風速、通年観測調査は、夏季について説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、南東からの風10.4%、東からの風8.6%、東南東からの風8.4%、環境センターが位置する北からの風の頻度は4.1%でした。平均風速は毎秒1.6mで、最大風速は6月1日13時の西北西からの風と6月1日17時の西からの風が毎秒6.3mを観測しました。秋季の調査結果につきましては表中に記載のとおりです。続きまして、風向・風速の特別観測調査について報告させていただきます。期間中の気温、湿度については、環境センター地点で平均気温15.1℃、平均湿度は74%でした。風向・風速につきましては、野口地点で説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、西北西からの風が16.7%、北西からの風が10.1%、北北東からの風と西からの風が8.3%でした。環境センター方向からの風の頻度は、北からの風6.5%を観測し、平均風速は毎秒1.7mで、最大風速につきましては、10月24日の1時に北北東からの風が毎秒5.8mを観測しました。ほか、林地点、大山地点、環境センター地点の測定結果につきましては、表中に記載のとおりです。続きまして、4ページをご覧ください。環境濃度、通年観測・特別観測につきましては、通年観測、野口地点で説明させていただきます。二酸化硫黄の夏季の最高値は0.002ppm、秋季の最高値は0.001ppm、二酸化窒素の夏季、秋季の最高値は共に0.011ppm、浮遊粒子状物質の夏季の最高値は0.075mg/m³、秋季の最高値は0.036mg/m³、塩化水素の夏季、秋季の

最高値は共に 0.001ppm、特別観測につきましては、表中に記載のとおりです。5 ページは、特別観測全日データ（秋季）の調査地点での風向風速を表した図であり、6 ページは風向別出現頻度及び平均風速、特別観測全日データ（秋季）の表になります。

続きまして、資料 3、調整池からの排水調査報告書の 1 ページをご覧ください。第 1 章、調査概要の 1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査日は、令和 7 年 10 月 8 日になります。1-4 調査項目及び調査方法につきましては表 1-1 に示すとおりです。2 ページは水質調査地点位置図になります。3 ページをご覧ください。第 2 章、調査結果について報告させていただきます。水素イオン濃度は pH 7.2、生物化学的酸素要求量は 2.3mg/L、化学的酸素要求量は 5.3mg/L、溶存酸素量は 4.1mg/L、浮遊物質量は 1.1mg/L でありました。

以上で、議題 2、議題 3 についての報告を終わらせていただきます。

稲垣委員長：事務局の説明は終わりました。これについて、質問はありませんか。

稲垣委員長：よろしいですか。ほかに質問がなければ、議題 2 及び議題 3 については、終了します。以上で議事を終了します。

続きまして、「その他」について、事務局から何かありませんか。

竹内事務局長：事務連絡をさせていただきます。次回の委員会の開催についてではありますが、管理委員会の定例会につきましては、管理委員会要綱によりまして、年 2 回の開催となっております。よって、次回につきましては、本年 8 月上旬を予定しております。開催日時につきましては、決定次第、郵送にてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

稲垣委員長：ほかに何かありませんか。よろしいですか。

井戸田委員：ここの稼働、何年まで使われるかということを知り漏らしたので教えてください。

竹内事務局長：お地元と協定を結んでいるんですけど、それでいきますと令和 22 年 3 月までとなっておりますので、あと残り 14 年です。その期間を

前回のここを立ちあげるときにお地元と協定を結んで、お約束としていわゆる明文化ですが、文書に記載させていただいております。

井戸田委員：まだ、10年もあるということだね。

竹内事務局長：そうです。10年はございます。

井戸田委員：分かりました。

野々川委員：今の質問に関連しておりますが、令和22年までということは、次の場所の計画はあるんですか。

竹内事務局長：この類の施設ですので、普通の建物と違って、手続きが場合によっては日数がかかるので、逆算するといろいろと具体的な検討ですとか徐々に着手する次期に来つつあるんですけど、現状、具体的にお示しできるものはないので、引き続き時間にのり遅れることのないように検討は随時進めてまいりたいと考えております。

井戸田委員：ここが閉鎖だと言ってほかに立ちあげるところはあるということは結局、分からないということだね。もし地元がOKすれば、このまま、また先へいきますよということになるんですか。そういうことはないですか。

竹内事務局長：今の段階で、現状申し上げにくいところですけど、ひとまずはっきりしているのは、お地元の協定があるということですので、それにそって検討を進めていくということとは言えると思うんですけど、お地元のご意向ですとか、そういう話しになると、一歩二歩踏み込んだ話しになりますので、今後、具体的に色々なやりとりがあるとすると、きちんと丁寧にお話しをさせていくということになるかと思えます。今の段階では白紙の状態でございますので、協定を前提に検討を進めていくということでございます。

井戸田委員：そうすると、温水プールもきちっとしたものを作れるんじゃないかなと思うんだけど、そんなわけにはいかんでしょうか。

竹内事務局長：温水プールにつきましては、野口区の皆さまをはじめ、小牧市

民の公共施設という位置づけがある中で、以前の利用実績をみますと、意外に市内よりも市外の方が多かった。市民に還元できてるかという見方もございますので、そのことも含めて当然広い角度から検討していく必要があるかと思っておりますので、ここでは組合の立場ですので、具体的なことは申し上げることはできませんが、分かる範囲でのデータからみますと、以前の温水プールは、どちらかというとし外利用の方が多かったという現実はございました。

井戸田委員：分かりました。

稲垣委員長：ほかはよろしいですか。なければ、本日予定しておりました議事を終了します。これをもちまして、令和7年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第2回定例会を閉会といたします。

本日は、お疲れ様でした。